会 議 録

会議録	平成28年度 第8回 長洲町教育委員会会議
招集年月日	平成28年10月27日(木) 午後2時
招集場所	長洲町役場 3階第1委員会室
出席者	松本教育長、大山教育長職務代理者、木下委員、田中委員、隈部委員
欠席者	なし
職務説明責任者	藤井学校教育課長、長田生涯学習課長、松林学校教育課長補佐
会議録作成者	松林学校教育課長補佐を指名

日程番号	事件番号	事 件 内 容
第 1		議事日程について
第 2		会議録署名委員の指名について
第 3	議案第10号	長洲町放課後子供教室推進事業の教育活動サポーターの委嘱について (生涯学習課)
第 4	協議第 8号	教育課程特例校の指定について (学校教育課)
第 5	協議第 9号	平成28年度全国学力・学習状況調査の公表について (学校教育課)
第 6	報告第18号	生徒指導について【非公開】 (学校教育課)

【会議録】

事務局：皆さまこんにちは。只今から、第8回長洲町教育委員会会議を開催いたします。なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条第1項に基づき、会議の議事進行を教育長にお願いします。

教育長：はい、皆さまおはようございます。本日は、出席委員が定数に達しておりますので、この会議が成立することを報告します。

あらかじめ、お諮りします会議の議題は、事前に通知したとおりでよろしいでしょうか。

各教育委員：はい。

教育長：なお、日程番号第6、報告第18号は、個人情報が含まれますので、非公開としますが、よろしいでしょうか。

各教育委員：はい。

教育長：日程番号第 1、議事日程について、本日 1 日間とします。よろしいでしょうか。

各委員：はい

教育長：日程番号第 2、会議録署名委員の指名について、大山委員を指名します。

大山委員：はい、お受けいたします。

教育長：日程番号第 3、議案第 10 号 長洲町放課後子供教室推進事業の教育活動サポーターの委嘱について、説明をお願いします。

長田課長：議案第 10 号 長洲町放課後子供教室推進事業の教育活動サポーターの委嘱について、別紙のとおり委嘱したいので、教育委員会の承認を求める。平成 28 年 10 月 27 日提出 長洲町教育長 松本 昇でございます。

(以下、別紙にて説明)

教育長：今の件について、ご質問、ご意見はございませんか。

大山委員：サポーターとかコーディネーターとか

長田課長：以前安全員と言っていたものがサポーターと変わりました。

隈部委員：これまでの経緯が分からない。サポーターとかコーディネーターはどんな関係にあるのか。

長田課長：コーディネーターは活動内容を計画する。サポーターは子どもたちを見守る役割です。

大山委員：ここまで手当てが出る。あとは完全なボランティア。

木下委員：ボランティアもおるわけ。

教育長：それでは、放課後子供教室推進事業の教育活動サポーターの委嘱については承認していただいたということで、この件はこれで終わります。

教育長：日程番号第 4、協議第 8 号 教育課程特例校の指定について、説明をお願いします。

藤井課長：協議第 8 号 教育課程特例校の指定について、別紙について、協議方お願いします。

平成 28 年 10 月 27 日提出、長洲町教育長 松本 昇でございます。

(以下、別紙にて説明)

教育長：今の件について、ご質問、ご意見はございませんか。

大山委員：申請しているわけだから、内容を検討するということですか。

藤井課長：時数を増やすことになるので、1 年～4 年は新設で時数を増やすしかない。

大山委員：週の時数が増える。申請をし直すことか。

藤井課長：修正して出すことになる。

隈部委員：増やせばよくなることは確かなので、どこにしわ寄せがくるのか、はっきりしてそのしわ寄せをどう解消するか、議論しないといけない。

藤井課長：たとえば、5 時間授業が 6 時間授業になって、1 コマ増える。

大山委員：どのようになっているのか。時数がどうなっているのか。

田中委員：1 年は毎日 5 時間授業。2 年は週 1 回 6 時間授業。3 年は週 2 回 6 時間授業となる。

木下委員：1 週間で 30 時間が目いっぱい。増やせば無理がくる。発達段階を考慮すれば無

理がくる。

藤井課長：これまでの計画では、1年、2年はモジュールのみ。3年、4年はモジュールと10時間。これでは英語の先生を雇ってももったいないので、モジュールで35時間分と45分授業で35時間分で70時間にしたい。意見を出していただいて、総合教育会議に掛けて、校長会議で決定して、修正案を作り申請したい。

大山委員：3年、4年は英語が1時間増えるとはみ出してしまうのではないかと。

木下委員：それでいいと思う。

大山委員：本来の教育行政は町長からの指示でなく。総合教育会議で方向性が決まって進めるべき。

大山委員：JETは使えないのか。

松林補佐：JETは助手ということでしか使えない。

大山委員：教育課程はだれが作るのか。カリキュラムはだれが作るのか。

松林補佐：各学校に担当がいるので、六栄小校長に中心になっていただいている。

大山委員：バンテージに出してもらって、教育委員会で検討していかなければならない。

教育長：まとめます。全学年70時間で行います。3年、4年の総合的な学習の時間の10時間は戻します。これで提案していきます。

教育長：それでは、この件はこれで終わります。

教育長：日程番号第5、協議第9号 平成28年度全国学力・学習状況調査の公表について、説明をお願いします。

松林補佐：協議第9号 平成28年度全国学力・学習状況調査の公表について、別紙について、協議方をお願いします。平成28年10月27日 長洲町教育長 松本 昇でございます。

(以下、別紙にて説明)

教育長：今の件について、ご質問、ご意見はございませんか。

木下委員：学力、3校連携の授業研など、やっていることも書いてほしい。

隈部委員：本来なら言うべきことをきちっと言う。

大山委員：それでも成績が落ちていると言われる。取組みがほかの地区より弱いのではないかと。

木下委員：アンダーアチーバー⇒逃げ道にされたら問題⇒授業研しますでは伸びない。学校も精一杯しているなら我々もどうにかしたい。

隈部委員：甘くなってきているのかどうか。

大山委員：よそが上がっている。補習をやっているところが増えている。長洲ではまだなされていない。

教育長：学校はやっている。六栄小では年間計画もある。低学力の児童への対策もやっている。

木下委員：日常的になっているのか。大研は年1回、授業は毎日、これが結びついているなら。

大山委員：低学力の子に指導を。教育委員会が分析しないといけない。分布図は出ている

のか。正常な分布図なのか。

木下委員：どのような支援があるのかまでしないといけない。

田中委員：先生の質。いい先生を連れてくる。新任管理職が多い。学力充実の流れが途切れているのではないか。

木下委員：それが本質だ。教師力、指導力。

大山委員：学校間格差はいらない。

木下委員：その時、その時の児童生徒の特性がある。

大山委員：よその地区では力を入れている。地域人材の活用が遅れている。

木下委員：先生方はゆとりがない。学力充実をメインにやってくださいと言いたいのだが。生活に関する調査で、生活に問題がある。家庭教育を啓発していかなければならない。学習する環境ができていない。

隈部委員：ここで議論してもそれぞれ思いが違うので。学力向上対策はだれが、どうするのか、具体的に書いてほしい。

隈部委員：我々の立場では昨年の対策が的を得ていなかったと指摘できる。一段上の立場に立ってものを言わないと、一緒の内容を話していても。

木下委員：各学校学力向上対策委員会で作っている。きちんとやっているか出してもらわないとわからない。

大山委員：学力向上アクションプランには 3 つの柱がある。スマホの使い方について検討し、各家庭に下ろした。1 回きり終わっている。スマホ時間も減っていない。

田中委員：授業をしっかり聞いたら 70 点は取れる授業をされているだろうなあと思っている。そのため「早寝・早起き・朝ごはん」に努めている。家庭学習はプラスアルファの部分。

隈部委員：学校間格差はいらない。

大山委員：その学年の前年、小学校 1 年生からの一覧表を見たい。

教育長：もう一回提案をします。分析と対策は入れないでアップするでいいですか。

各委員：はい。

教育長：それでは、この件はこれで終わります。

教育長：日程番号第 6、報告第 18 号生徒指導について、説明をお願いします。

藤井課長：報告第 18 号 生徒指導について、このことについて、別紙のとおり報告します。

平成 28 年 10 月 27 日 長洲町教育長 松本 昇でございます。

(以下、別紙にて説明)

【非公開】

教育長：それでは、この件はこれで終わります。これで本日の全日程を終了します。